

2024年フクシマ連帯キャラバン参加報告書

全港湾東北地本小名浜支部青年部書記次長 堀井淳平

今回フクシマ連帯キャラバンを行うにあたって事前準備から参加まで携わりいろいろな経験ができました。

被災地を回るフィールドワークでは小名浜で事前フィールドワークを行い全国の仲間に何処をみせて何を伝えたいか、なにを感じてもらいたいかなどを考えて下見と準備をしました。当日のフィールドワークでは講師役として車内で説明して回ったのですが自分の知識不足、経験不足が目立ち不甲斐なかったなと思います。来年、再来年とずっと続けていく活動なのでもっと成長した姿を見せられるようにしたいです。

キャラバンを通して10年以上経った今でも故郷に帰れてない人や帰還しても前とはちがう環境になってしまっている町を見てやはり原発は廃止すべきだと今までよりも強く思いました。そして復興とは何なのかと考えました。壊れた建物を直したり新しい建物を建ててメディアに取り上げられることを復興としていいのか。ほんとの復興とは今まで住んでいた人々が元通りの生活ができてこそほんとの復興なのではないのかと思います。元通りの生活に戻すのはとても困難なのは分かります。ならばそれに変わる取り組みや姿勢を政府は見せるべきだと感じました。

原発事故が風化してきている今、大事だと思うことは自分達の若い世代が自ら学び、キャラバンのような行動を実行し、続けていくことだと思います。そしてまた次の世代へと引き継ぎ風化させないことです。地元民の自分もこの活動をするまでは何が危険で何が問題なのか知らず生活してきてしまっていました。なのでこれからはもっと知識をつけて全国の仲間、身の回りの人、次の世代に引き継いでもらえるように頑張りたいと思います。